

歴史のなかの人びと

―出合い・喚起・共感

樋口映美編

歴史研究者14名（アメリカ人研究者4名と本学経済学部教授1名を含む）が、自分たちの出遭った歴史を今どう伝えればよいのか、過去3年間試行錯誤した。その結果が本書である。「記憶」「モノ（史跡・写真）」「事件・出来事」「意識」を手がかりに展開される歴史の1コマは、活動家との対話、奴隷制下の裁判記録や日記、史跡案内、19世紀イギリスの石鹼をめぐる近代、ベトナム難民の運命、メキシコの新聞少年たちの日常、虐殺の噂、有名デパートの店員の話など、多種多様。どこからでも自由に読める。それぞれの歴史の1コマから何が読み取れるか、本書の執筆者と共に考えてみてほしい。歴史を考える楽しさ、歴史から今を考えるおもしろさを発見できるかもしれない。

（彩流社・並製2200円＋税・電子版あり）

編者（ひぐち・はゆみ）  
文学部教授。アメリカの人種と政治。